

全国福祉高等学校長会主催  
令和 6 年度 社会福祉・介護福祉検定

# 3 級 問 題

( 50分 )

◎ 指示があるままで開かないでください。

## 注 意 事 項

- 1 解答用紙への受検番号等の記入  
解答用紙に、受検番号、学校名、クラス、氏名を記入してください。
- 2 試験問題  
問題数は 150 問です。解答時間は 50 分です。
- 3 解答方法  
(1) 各問題について、正しい記述には○。誤っている記述には×を解答欄に記入してください。  
(2) 一度解答したところを訂正する場合は、消しゴムで消し残りのないよう完全に消してください。
- 4 その他の注意事項  
(1) 印刷不良やページが抜けている場合は、手を挙げて試験監督の先生に申し出てください。  
(2) 問題の内容についての質問には、一切お答えできません。

## 1 職務の理解

1	地域密着型サービスは、各市区町村の住民のみが利用可能とされている。
2	介護福祉士は、社会福祉士及び介護福祉士法により定められた国家資格であり、この法律では「心身の状況に応じた介護」と「その介護者に対して介護に関する指導を行う」と明記されている。
3	日本の高齢化率は2025年をピークに、今後下降すると予想されている。
4	介護保険制度における施設サービスは、介護老人福祉施設と介護老人保健施設の2つである。
5	介護従事者が他の専門職と連携するためには、介護福祉職としての強みと限界を知り、各専門職の専門性と役割を理解する必要がある。

## 2 介護における尊厳の保持と自立支援

6	介護従事者には、自らの意思を伝えることが困難な人に対して、本人の声にならない声を代弁（アドボカシー）する役割もある。
7	介護を必要とする人に対して、ADLを高める支援を行うことが介護の役割である。
8	尊厳の保持とは、利用者をひとりの命ある存在として大切にし、尊重することである。
9	介護の場面における自己決定とは、何もかも利用者の思いどおりにすることである。
10	介護の場面における自立とは、他者の支援を受けずに、自分の力で判断したり、ひとり立ちしたりすることである。

## 3 介護の基本

11	利用者の支持基底面が狭いほど、姿勢は安定する。
12	介護を行う場合、これから何を行うのか、またこれからどうなるのかを説明し、利用者に理解を得るようすることをインフォームド・コンセントという。
13	片麻痺のある利用者の杖歩行を支援する場合、支援者は利用者の麻痺のある側（患側）の斜め後ろに位置する。
14	レム睡眠とは、脳を休める眠りのことである。
15	片麻痺のある利用者の衣類の着脱を支援する場合、衣類は患側から脱ぎ、健側から着ることが原則である。
16	口腔ケアは、口の持つあらゆる動きを健全に保つだけでなく、誤嚥性肺炎の予防にもつながる。
17	片麻痺のある利用者の場合、ポータブルトイレは利用者の健側（寝た状態での健側）の足元に準備する。

18	缶詰やレトルト食品などの加工食品には消費期限や賞味期限の記載があるが、これは開封後の目安になっている。
19	病気やけがなどで安静状態が続くことで心身のさまざまな機能低下を起こした状態を生か不活発病（廃用症候群）という。
20	成人の1日の尿量は約500mlである。
21	手段的日常生活動作（IADL）とは、買い物、炊事や洗濯、金銭管理、交通機関の利用などを指す。
22	利用者とのコミュニケーションをとる場合、言語だけでなく、全身から発するサインである非言語も含めて、本人の気持ちやコミュニケーションをとることが大切である。
23	車椅子の介助を行う場合、急な下り坂は前向きで一歩一歩ゆっくり下りる。
24	むせを少なくするための食事の姿勢は、あごを上げて、浅く座るといい。
25	入浴は、温熱作用、静水圧作用、浮力作用が働く。

#### 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携

26	日本の社会保険制度は、医療保険、公的年金保険、介護保険、雇用保険、労働者災害補償保険の5種類である。
27	介護保険制度における第2号被保険者の保険料は市町村が徴収する。
28	養護老人ホームと軽費老人ホームの入所者も、介護保険制度による介護サービスの利用が可能である。
29	高齢者虐待防止法では、高齢者虐待を身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待、性的虐待の4つに分けて規定している。
30	有料老人ホームにおける生活費など入居費用は、全額を利用者が自己負担する。
31	介護保険における介護サービスなどを利用する場合は、原則として介護福祉士に介護サービス計画(ケアプラン)の作成を依頼する。
32	サービス付き高齢者向け住宅では、居住者に対して状況把握サービスと生活相談サービスを提供する。
33	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)は近年、少人数を生活の単位として、個室を基本とした介護を行うユニット型個室の施設が増えている。
34	2006年の介護保険制度の改正では、予防重視型システムへの転換を柱とする見直しが行われた。
35	介護保険制度を支える財源は保険料と税金であるが、税金は国と市町村で賄っている。
36	喀痰吸引および経管栄養は医師行為にあたるため、介護従事者は行うことができない。

37	介護保険によるサービス(保険給付)を受けるには、被保険者が都道府県に要介護認定・要支援認定の申請を行う。
38	障害者差別解消法では、行政機関や民間事業者による不当な差別的取扱いと合理的配慮の不提供を禁じている。
39	障害を理由に窓口での対応をこばんだり、順序を後回しにすることは、合理的配慮にあたる。
40	障害の特性に応じた休憩時間の調整などのルール・慣行の柔軟な変更を行うことは、不当な差別的取扱いとなる。
41	ICF(国際生活機能分類)における環境因子には、友人や職場の仲間などは含まれない。
42	1949年の身体障害者福祉法は、日本における障害者に対する施策として最初に制定された法律である。
43	障害支援区分は1～5の5段階であり、必要とされる支援の度合いは区分5が最も高い。
44	障害者基本法第2条には、障害者の定義が明記されている。
45	障害者総合支援法では、身体障害、知的障害、精神障害がある20歳以上の人を「障害者」、20歳未満の人を「障害児」としている。
46	地域包括支援センターには、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員(ケアマネジャー)が配置されている。
47	地域包括ケアシステムでは、支えあいを「自助」「互助」「共助」「公助」の4つから説明している。
48	日常生活自立支援事業と成年後見制度は、認知症や知的・精神障害などにより判断能力が不十分な人の権利擁護の観点からつくられたしくみである。
49	認知症高齢者が急増するなか、後見制度の新たな担い手として市民後見人が期待されている。
50	法定後見開始の審判は、現に判断能力が不十分な人について、本人または家族などの申し立てにもとづき家庭裁判所が行う。

## 5 介護におけるコミュニケーション技術

51	支援者が自分の考え方や価値観を知り、支援の際の態度や行動などを振り返ること(自己理解)を助けるものとして、ジョハリの窓がある。
52	傾聴は、偏見や先入観を持たず、利用者の言葉、表情、感情を受けとめることが大切である。
53	言語的コミュニケーションには、身ぶりや姿勢、表情、視線、服装、声のトーンなどがある。
54	グループワークを行う際は、対象となるグループ内に生じるグループダイナミクスの把握はしなくともよい。
55	ICTの発達によりさまざまなコミュニケーションの手段や方法が開発され、当事者や利用者の状態に合った、多様なコミュニケーション手段や方法の開発と活用が期待されている。

56	バイステックの7原則の1つに「自己決定の原則」がある。
57	地域を基盤としたソーシャルワークとは、生活困難を抱える人への支援と、生活困難を生み出す地域や社会のあり方を改善していくための働きかけである。
58	視覚障害のある人との具体的なコミュニケーションの方法として点字があるが、中途失明者は点字を習得することが難しいケースもある。
59	全盲と全ろうの盲ろう者には、近距離で手話をすることが一番有効である。
60	支援におけるコミュニケーションは、利用者との支援関係を構築するため、専門用語を使い情報提供をすることが望ましい。

## 6 老化の理解

61	人間のからだは、生まれてから死ぬまで、常に変化し続けており、その変化を発達という。
62	スキヤモンは発育を「一般型」・「神経型」・「リンパ型」・「生殖型」の4つで示した。
63	発達には、一定の方向性を持った変化であり、その変化も一定である。
64	WHOの定義では、65歳～74歳の人を前期高齢者、75歳以上の人を後期高齢者として定義している。
65	老化とは、生まれてからの成長を含めて、死にいたるまでの過程を意味する。
66	加齢とは、成長がピークに達した後には衰退・低下する過程を意味する。
67	老化に伴って免疫機能が低下するため、細菌やウイルスなどの病原体に対する抵抗力が弱くなる。
68	老年期にうまく適応した生き方をサクセスフル・エイジングという。
69	高齢者の方で複数の疾患を有しているケースは稀である。
70	日本老年医学会が2014年に提唱した概念で、「虚弱」を意味する言葉をフレイルという。

## 7 認知症の理解

71	1963年に老人福祉法が制定され、日本で初めて、高齢者福祉に関する施策が体系化された。
72	イギリスのトム・キットウッドが、パーソン・センタード・ケアを提唱した。
73	ユマニチュードとは、「人間らしさ」を表す言葉である。

74	BPSD (行動・心理症状) はすべての認知症に共通の症状ではなく、個人間差・個人内差が大きい。
75	認知症の原因となる病気は、脳血管性認知症が一番多い。
76	アルコール多飲により大脳が委縮することがあっても、認知機能は低下しない。
77	アルツハイマー型認知症は、記憶障害が初期の主症状であり、ゆるやかに進行する神経変性疾患である。
78	探し物が見つからない時に、自分以外の誰かが盗ったかと思いついたことをもの盗られ妄想という。
79	60歳までに発症する認知症を若年性認知症という。
80	若年性認知症は、高齢発症の認知症と比較して生活の変化や困難が小さい。
81	中核症状とは、認知症の人にほぼ共通して見られる症状であり、記憶障害や見当識障害などがある。
82	ひもときシートとは、認知症の人の行動や言葉の背景を読み解いていくツールのことである。
83	市区町村や地域、学校、職場などで実施される「認知症サポーター養成講座」を受講すると認知症サポーターになることができる。
84	認知症治療は完治を目的としている。
85	レスパイトケアとは、在宅で介護する家族に、一時的な休息や息抜きをしてもらうための支援である。

## 8 障害の理解

86	国際生活機能分類 (ICF) は、2001年5月にWHO (世界保健機関) が採択した世界共通の障害モデルである。
87	ICFでは、日常生活や社会生活上に困難が生じた場合に「障害」という言葉を用い、生物レベルでは「機能障害」、個人レベルでは「参加制約」、社会レベルでは「活動制限」と名づけている。
88	インクルージョンは、障害のある人のストレッチングスを活用した援助や環境の改善を行うことによって、本人が自らの課題に気づき、主体的に解決策を見いだしていく支援方法である。
89	視覚障害の後天的な原因として、白内障や緑内障などの目の疾患が多い。
90	脳血管障害とは、からだの内部にある臓器が十分に機能せず、日常生活が制限される状態をいう。
91	ストーマとは、人工的に造設した尿や便の排泄孔のことである。

92	精神障害の種類は、その原因をもとにして、外因性と心因性の2つに大別される。
93	精神療法とは、現実の受け取り方やものの見方に働きかけて、心のストレスを軽くしていく治療法である。
94	近年では、精神科病院における入院者の長期化や高齢化が社会的課題となっており、2012年4月から、長期入院者に対する地域相談支援が実施されている。
95	知的障害の原因は、髄膜炎などの感染症や、胎児期や出産時に脳損傷が生じるなどある程度はつきりしたものもあるが、ほとんどの場合明らかになっていない。
96	学習障害は、自分をコントロールする能力が弱く、注意力や集中力に欠ける、じっとしていられない、突然何かしてしまうという特徴が見られる。
97	学習障害は、小学校に入り教科学習が始まってからわかかることが多いので、学校での支援が重要となる。
98	高次脳機能障害の症状の一つである注意障害とは、周囲への注意を継続させることができず、物を見落としてしまう障害である。
99	ピアサポートとは、障害児・者を日常的に介護している家族に対して、一時的にその介護から開放し、負担感を軽減し、心身の疲れを回復することを目的とした家族支援のひとつである。
100	バリアフリーは、年齢や能力の違いにかかわらず、できる限り多くの人が、可能な限り使いやすいデザインをめざす考え方である。

## 9 こころからのしくみと生活支援技術

101	大人が担うような介護や責任を引き受け、家族の世話をしなければならぬ子どもたちは減っている。
102	北欧諸国では、「福祉は住宅(住まい)に始まり住宅(住まい)に終わる」という考え方が普及している。
103	ヒートショックとは、温度の急激な変化により、血圧が大きく変動することなどによって起こる健康被害のことである。
104	身じたくを整えることは、相手への言語的なコミュニケーションのひとつでもある。
105	洗面には、顔面の皮脂や汚れを落とし、清潔を保持すると共に血流を促進する効果がある。
106	夏季の上着は吸湿性がよく汗を蒸散させる綿や麻製品を中心にする。
107	基本肢位は、拘縮などで関節可動域が制限された場合でも、ADLを行ううえで最も支障の少ない肢位のことである。
108	ボデイメカニクスを応用することで軽減できるのは、介護従事者の負担のみである。
109	移動は、単に筋の運動だけでなく、呼吸器系、循環器系、消化器系など、全身に影響を及ぼす運動である。
110	平地での杖を使った3動作歩行では、杖、杖側の足、杖のない側の足の順で歩く。

111	咀嚼やくとは、口の中で形成された食塊を飲み込むことである。
112	椅座位での食事支援では、身体とテーブルの間に隙間を作らないようにする。
113	1日の飲み水としての水分摂取は、1,500ml程度が理想とされる。
114	パンやカステラは柔らかいので、誤嚥を防ぐための好ましい食品である。
115	入浴は、清拭に比べて爽快感を感じやすいが体力の消耗や心肺への負担が大きい。
116	麻痺がある場合、浴そうへは患側の足から入れる。
117	入浴は、乾燥症状の悪化や強いかゆみを引き超す原因となる。
118	入浴支援は、食後30分以上たってから実施する。
119	排泄障害は、健康に支障があるだけでなく、生活内容への制限にもつながる。
120	尿器の型式には、男性用・女性用の区別はない。
121	排泄時は、前かがみの姿勢になったほうが便が出やすい。
122	日中5回以上排尿がある場合は頻尿という。
123	健やかな睡眠をとるためには、規則的な生活を送ることが重要である。
124	高齢者がちよっとした物音や尿意で目覚めてしまうのは、ノンレム睡眠が増えるからである。
125	飲酒や喫煙の有無は眠りとの関係がない。
126	ベッドメイクを行う際は、ベッドの高さを介護従事者の身長に合わせる。
127	終末期のケアは、様々な苦痛を可能な範囲で緩和していくことが基本である。
128	終末期ケアの連携チームに宗教家に参加することはない。
129	一般に、老いて衰えた先にある自然な死を老衰死という。
130	死後の納棺時、衣服は本人や家族の希望に沿ったものでよい。



131	ニーズとは、単に利用者がしてほしいと思っ
132	趣味のゲートボールサークルへの参加は、ICF (国際生活機能分類) の構成要素では、「活動」に分類される。
133	介護過程の「評価」は、介護従事者だけでなく本人や家族などからの評価も反映する。
134	多職種協働とは、異なる専門性を持った多くの職種が同じ目標に向かって共に働くことである。
135	介護支援専門員は、ケアプラン (介護サービス計画書) を作成する。
136	介護従事者は、利用者の日常生活を支援する時、利用者の自己選択、自己決定の機会を奪うことがないようになければならない。
137	人の体内や皮膚にはたくさんの細菌 (常在菌) が存在し、良い働きをするものだけである。
138	施設、在宅にかかわらず、地域のなかで利用者が望む自分らしい生活を支援するには多職種協働の必要はない。
139	記憶の過程は、4段階からなっている。
140	喪失とは、欲求の対象が現実存在していない状況をいう。
141	神経は、中枢神経と末梢神経の2つに分けられる。
142	自律神経は、生命維持に必要な循環、呼吸、消化、排泄などの機能を意識的に調節する神経系である。
143	肺と外の空気を交換し、肺胞と毛細血管内の血液の間でガス交換をすることを外呼吸という。
144	尿管は、腎臓で生成された尿を膀胱に運ぶ管であり、長さが約60cm程度である。
145	体内に侵入してきた細菌 (異物) を死滅させ、除去するはたらきが免疫である。
146	ユニバーサルデザインは、年齢や能力の違いにかかわらず、できる限り多くの人が可能な限り使いやすいデザインをめざす考え方である。
147	家事支援においてアセスメントする際には、ICFの考え方をを用いる必要はない。
148	加工食品には、消費期限や賞味期限の記載があるが、開封後、冷蔵庫に入れるなどしておけば早めに消費する必要はない。
149	寝たきりで動くことが少ないと衣服はほとんど汚れることはない。
150	在宅生活、施設利用に限らず、自分のお金は利用者自身が管理することが基本である。

受験番号	学校名			
クラス	年	組	番	氏名

\* 各問題について、正しい文章には○、誤っている文章には×を解答欄に記入してください。

1 職務の理解

①	1	2	3	4	5					
						6	7	8	9	10

2 介護における尊厳の保持と自立支援

③	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	24	25											

3 介護の基本

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携

④	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	

5 介護におけるコミュニケーション技術

⑤	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60			

6 老化の理解

⑥	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70			

7 認知症の理解

⑦	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83
	84	85											

8 障害の理解

⑧	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98
	99	100											

9 ころとからだのしくみと生活支援技術

⑨	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113
	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126
	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139
	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150		

①の得点	②の得点	③の得点	④の得点	⑤の得点	⑥の得点	⑦の得点	⑧の得点	⑨の得点
------	------	------	------	------	------	------	------	------

①～⑨の合計	/150
--------	------